

# 研究主題 「社会的事象に対する自分なりの見方・考え方をもち 適切に表現することのできる児童の育成」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
台東区立石浜小学校 主任教諭 若林 廣美

## 第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）の改善の基本方針では、「社会的事象の意味、意義を解釈し、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する。」としているが、今年度7月に実施された東京都の学力向上を図るための調査（小学校社会5年）では、「複数の資料を関連付けて読み取り、説明すること」に課題が見られた。

現在、社会科では、上記のような課題を解決し、「確かな学力」を育成することを目指しているが、実際に社会科を教える教員からは、「社会科は『何を』『どのように』教え、考えさせればよいのか、具体的な姿がよく分からないので、指導が難しい。」「社会科は、資料の読み取りや活用が大事というけれど、どのように行えばよいのか。」などといった、学習指導に対する戸惑いの声がある。具体的な指導法が定まらず、教えるべき内容と考えさせるべき内容が混同されるような状況では、児童に確かな学力を付けさせることは難しいと考える。

この課題を解決すべく、本カリキュラム開発研究において、社会科指導の具体的な内容や方法の指針を示せるような研究開発を行う。そして、それらを活用した検証授業を行い、児童に対し「社会的事象に対する自分なりの見方・考え方をもち、適切に表現する力」を身に付けさせることができたかどうかを検証していく。このことを通じて、教員の社会科における学習指導の技術の向上や児童の確かな学力の育成に役立てていきたいと考え、本主題を設定した。

## 第2 研究仮説

児童の思考の流れに沿った単元構造を設定し、児童が習得した知識・技能や学習内容に関する資料を、どこで、どう活用させ、何を考えさせるのかを明確にした学習活動を工夫して行えば、社会的事象に対する自分なりの見方・考え方をもち、適切に表現することのできる児童が育つであろう。

## 第3 研究の内容と方法

### 1 基礎研究

文献や先行研究の分析により、開発研究に向けて以下のような基礎研究を行った。

#### (1) 本研究における言葉の定義について

##### 【社会的事象に対する自分なりの見方・考え方】

「社会の中の一員として、公共の精神に基づき、社会の事実や出来事を広い視野から公正に捉えた考えのこと。」

この社会的な見方・考え方を身に付けていく上での思考の過程や表現の仕方は、児童一人一人において違ったものとなる。それを「自分なり」と捉える。

##### 【適切に表現する】

『思考・判断』した結果、その内容について、学習で得た用語（知識）を用い、理由や根拠とともに、言語などによって表されること。」

#### (2) 資料活用のための技法や手だてについて

資料活用の技法には、「事実認識」、「比較」、「分類・整理」、「関連付け」、「抽象化」、「具体化」、「総合」、「再構成」などがある。学習指導計画作成においては、学習のねらいや資料の性質に応じて活用の技法を明確にし、発問や学習活動の工夫といった手だてを講じるようにする。そして、思考したことを表現していくための言語活動を工夫することにより、資料は有効に活用され、児童の「思考・判断・表現」する能力が育成されることが分かった。



#### 4 検証授業

検証授業は、都内公立小学校の第4学年と第6学年で行った。

まず単元構造シートを基に、1時間ごとの学習指導案を作成した。その際、本時のねらいの達成と児童の思考の流れを関連させることを重視し、どのような資料を使うのか、また活用させる際の技法は何を用い、どのように発問していくのかを具体的に明記するようにした。さらに、児童の思考の流れに即したワークシートを作成し、それらを用いて授業を行った。本時や単元の最後には、学習問題に対する自分の考えを書いて表現させ、社会的な見方・考え方を身に付けることができたのかを検証した。

##### (1) 資料活用の技法を明確に位置付けた学習指導案と児童の反応による検証

資料活用の技法や発問に従って資料の読み取りを促し、歴史的意味を考えさせ、そこで得た「見方・考え方」をワークシートに表現させて、学習を展開した(図2)。

時間	○主な学習活動	◆資料等 ☆留意点	資料活用の技法	発問	A児がワークシートに表現した内容
調べる・考える	○「殖産興業」「地租改正」「徴兵令」とは、それぞれどのようなことを目指して行われた政策なのか、資料から読み取り、考える。 ○3つの政策に共通している、キーワードや内容について考える。  3つの出来事をあわせてみると、大久保利通は、一体どのような国にしたいと思っていたのでしょうか。	◆「殖産興業」「地租改正」「徴兵令」説明した文書資料	抽象化 総合	各取組の内容について調べ、そのことによって、国にとってどのような利点(得、よき)があったのか考えましょう。	<p>&lt;殖産興業&gt; 外国の技術を学び、日本の技術を発展させる。</p> <p>&lt;地租改正&gt; 国に入るお金を安定させる。</p> <p>&lt;徴兵令&gt; 日本国民として、多くの人が兵役につき、強い軍隊をつくる。</p>
学び合う	○グループで、自分の考えを根拠をもって伝え合う。 ○友達同士の考えを基にして、大久保利通が目指した国づくりがどんな国だったのかをキャッチフレーズにしてまとめる。		抽象化	根拠を大切にしていよいよ考えをまとめ、キャッチフレーズにしてみよう。	<p>キャッチフレーズ 「技術と金と軍力をもった国」</p>
まとめる	○各グループの発表を聞き、自分のワークシートに、学習問題に対する自分なりの答えを書く。  外国の力に負けずに、強く豊かな国にしていこう。		再構成	今日の学習を基にして、大久保利通らはどのような国になることを目指したのかを考え、その思いをふきだしに書きましょう。	<p>自分なりの考え 「技術を発展させ、収入を安定させて、外国が攻めてきても勝てるように、強い軍隊をもった国にしていこう。」</p>

図2 【第6学年「明治維新」第5時学習指導案(一部抜粋)】

観察対象のA児は、「殖産興業」「地租改正」「徴兵令」の目的について、考えたことを総合させ、自分なりの言葉でキャッチフレーズにまとめた。その後、友達との学び合いを通じて考えを深め、大久保利通の思いを学習で獲得した知識を用い、より具体的に表現することができた。

##### (2) 単元の導入時とまとめにおいて表現した内容による検証

(1)の学習指導案を用いた学習を積み重ねていくことにより、単元の最初に書いた予想と単元最後に書いたまとめの表現とを比較し、「自分なりの見方・考え方」がどのように変容し、身に付いていったのかを分析した。

第6学年の観察対象B児の変容を追ったところ、第3時の学習問題の予想をする場面では、「西郷隆盛らは、みんなが満足できる国にするため、倒幕運動を行った。」といった、漠然とした、焦点化されていない考えだった。しかし、単元最後のまとめでは、「大久保利通らによって、日本は身分に関係なく、みんなが平等に暮らせるようになった。また、技術が進み、よい人材がたくさん生まれる西洋化した強い国になった。」というように、学習で獲得した知識・技能を基にして、より具体的に詳しく、自分なりの考えをまとめ、表現できるようになった。

### (3) 児童の検証授業後のアンケートによる検証

検証授業後に、4件法と自由記述によるアンケートを実施し、「自分なりの見方・考え方」を表現できたり、もつことができたりしたのか、児童に自己評価をさせた。

#### ア 4件法によるアンケート結果

	設 問	第4学年肯定的意見	第6学年肯定的意見
1	今回の学習では、学習して考えたことをワークシートに書き表すことができた。	94.1%	93.9%
2	毎時間のワークシートには、学習した言葉や内容を使って自分の考えを書くようにした。	88.2%	78.4%
3	今回の学習では、今までの社会科の学習より、自分が考えたことをすらすらと、またはたくさん書けるようになったと思う。	86.3%	75.4%

#### イ 自由記述（一部抜粋）

- ・「人々の考え」などを授業で習った言葉を使って、すぐに書けるようになった。
- ・考えることが多くなって、楽しかった。
- ・ワークシートは、書きやすく、振り返りしやすかった。
- ・学習したことや自分で考えた言葉で関係図を作ることに手ごたえがあった。
- ・キャッチフレーズやふきだしを考えることで、その人がどのように思っているのかがよく分かった。楽しかったし、歴史を深く考えやすくなった。

第4学年で約9割、第6学年で約8割の児童が肯定的回答をしていること、また自由記述からも、児童が資料を有効に活用し、自分なりの考えをもてたことが分かった。また、思考し表現することへの抵抗も少なくなり、自信をもって「自分なりの見方・考え方」を書き表せた様子が見えた。

### (4) 検証結果の分析・考察

検証授業を終え、第4学年・第6学年とも、単元最後の学習のまとめを全員が記述することができた。ワークシートをパターン化したことで定着が図られ、積み重ねてきた内容や方法を基にして、学習問題に対する自分なりの答えを導き出し、表現することができていた。

これらのことから、単元構造シートを基にし、資料活用の技法を明確に位置付けた学習指導案を作成する。そして、それを基にして資料やワークシートを作成し、学習指導案に明記した手だてとともに学習を展開していけば、児童の思考は円滑に流れ、自分の考えを適切に表現できることが検証された。一方、表現力には個人差が見られる。児童一人一人をより適切な表現に導くために、個別の働きかけをして、適切な用語を用いた自分なりの考えを表現させる指導の充実が必要である。

## 第4 研究の成果

- ・ 「単元構造シート」を作成したことにより、単元の構成や流れといった単元の全体像が明確になり、学習指導案やワークシートを作成する際の有効な手だてとなった。そのことにより、教員にとって、学習のねらいや児童の思考の流れが把握しやすくなったとともに、児童にとっても学習内容が理解しやすいものとなった。
- ・ 児童が身に付けた知識・技能や資料を活用する場面や発問などの手だてを明確にした学習活動を工夫して行ったことにより、児童は、学習して得た具体的な知識・技能を用い、自分なりの考えを、適切に表現することができた。

## 第5 今後の課題

学年が上がり、学習内容が難しくなる前に、社会科の学習が始まる第3学年から、「思考し表現する」活動を積み重ねていくことが重要である。そのために、今後、以下のことを行う。

- ・ 各学年の発達段階を踏まえた「社会的な見方・考え方」の系統性についての検討
- ・ 「社会的な見方・考え方」を系統的に育成していくための、資料活用法や指導法の開発